

令和2年度 文教委員会資料①

【所管事務の調査（報告）】

川崎市市民ミュージアム収蔵品レスキューの状況並びに

川崎市市民ミュージアム及び川崎市とどろきアリーナの浸水対策について

資料1 川崎市市民ミュージアム収蔵品レスキューの状況について

資料2 川崎市市民ミュージアム 浸水対策の状況について

資料3 川崎市とどろきアリーナ 浸水対策の状況について

参考資料 等々力緑地の短期的な浸水対策について

市 民 文 化 局

(令和2年7月16日)

川崎市市民ミュージアム 収蔵品レスキューの状況について

川崎市市民ミュージアムは、令和元年東日本台風により、地階に設置された収蔵庫が浸水し、建物や設備のみならず、収蔵品にも大きな被害が発生しました。定期的な報告として、6月30日現在の状況をお知らせいたします。

1 収蔵品レスキューのこれまでの経過、対応内容

(1) 主な経過

令和元年	10月22日	収蔵品レスキュー開始
	10月23日	文化庁へ救援等にかかる技術的支援の要請
	10月24日	文化庁文化財等災害対策委員会により技術的支援を実施決定
	11月14日	外部支援団体によるレスキュー開始
	11月30日	施設前広場に仮設ユニットハウスを設置（資料の応急処置や一時保管に活用）
	12月6日	施設前広場に冷蔵・冷凍コンテナを2機設置（紙資料等の冷凍保存に活用）
	12月11日	常設展示室で展示していた収蔵品を館外へ搬出、保管
令和2年	1月14日	閉鎖していた収蔵庫1から民俗資料レスキュー開始
	1月22日	外部冷凍倉庫（川崎市内）への搬出
	1月23日	収蔵庫2から考古資料レスキューを本格的に開始
	2月18日	施設前広場に冷蔵・冷凍コンテナを1機追加設置（計3機）
	2月27日	1階ラウンジ内に燻蒸庫を設置（資料の燻蒸処理に活用）
	3月2日	燻蒸開始
	5月25日	燻蒸庫を企画展示室2に移設し拡充
	6月4日	燻蒸が完了した民具等を本市他施設に移送開始
	6月19日	収蔵庫からの搬出完了
	6月27日	応急処置済みの収蔵品を外部倉庫へ移送開始

(2) 支援団体

これまでに支援いただいた団体

文化遺産防災ネットワーク推進会議（10団体）	その他支援・協力団体（4団体）
独立行政法人国立文化財機構	神奈川県博物館協会
独立行政法人国立美術館	日本大学芸術学部写真学科
大学共同利用機関法人人間文化研究機構	東京大学史料編纂所
国立国会図書館	学校法人専門学校 東洋美術学校
公益財団法人日本博物館協会	
公益社団法人日本図書館協会	
全国美術館会議	
全国歴史民俗系博物館協議会	
特定非営利活動法人 文化財保存支援機構（J C P）	
一般社団法人国宝修理装演師連盟	

2 収蔵品のレスキュー状況（令和2年6月30日現在）

被災収蔵品の収蔵庫からの搬出が6月19日に完了しました。

（1）分野別の出庫状況

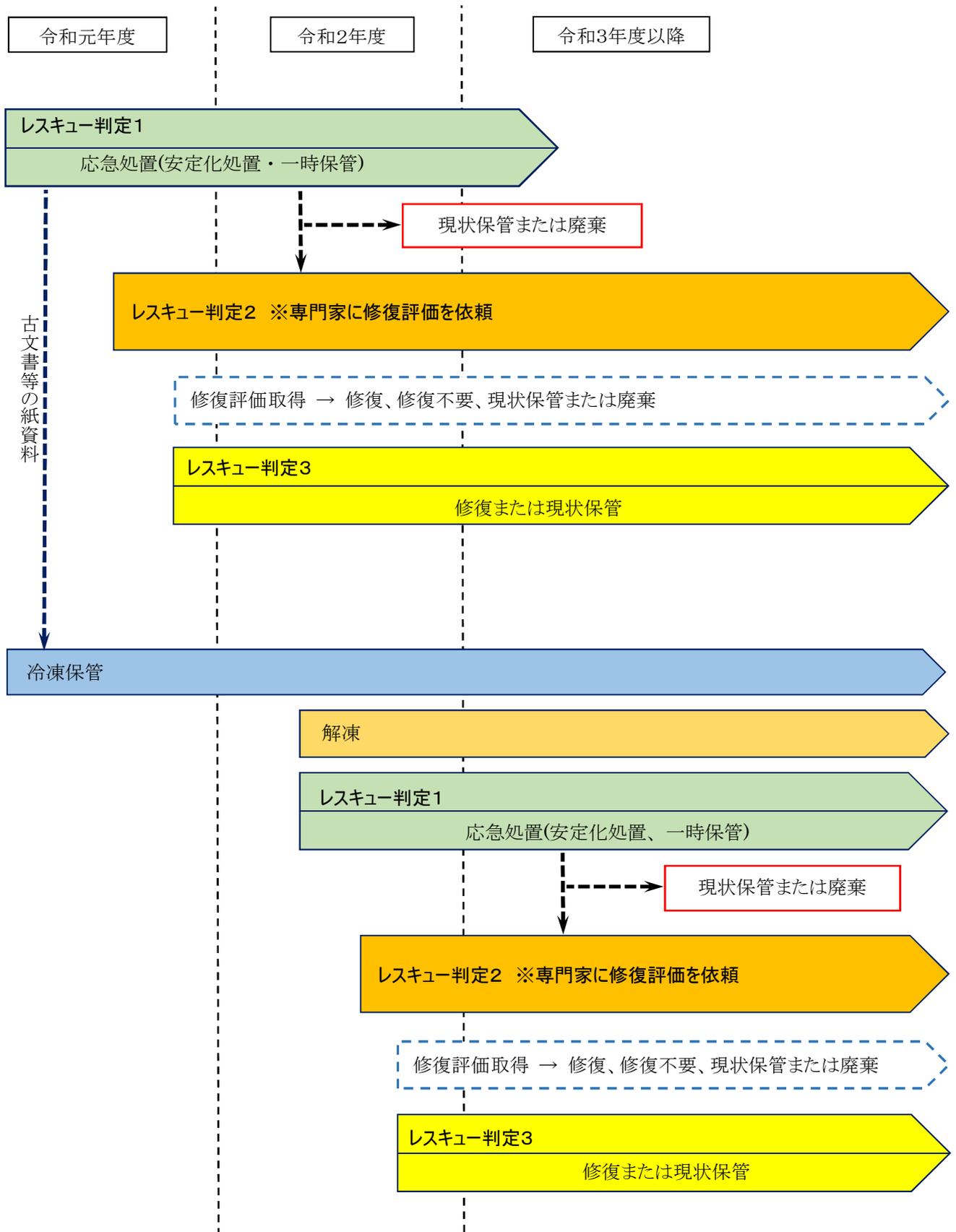
分野	収蔵数（約）	出庫数（約）	出庫率
〔考古〕	71,600	71,600	100%
〔歴史〕	29,200	29,200	100%
〔民俗〕	20,900	20,900	100%
〔美術文芸〕	11,300	11,300	100%
〔グラフィック〕	10,000	10,000	100%
〔写真〕	8,600	8,600	100%
〔漫画〕	63,100	63,100	100%
〔映画〕	12,600	12,600	100%
〔映像〕	1,700	1,700	100%
合計	229,000	229,000	100%

（2）レスキュー支援体制（令和2年6月30日現在）

レスキューに入った延べ人数

- ・指定管理者 約 3,200人
- ・川崎市職員 約 1,100人
- ・外部支援団体 約 1,600人
- 合計 約 5,900人

3 今後のスケジュール



4 収蔵品のレスキュー状況概要（令和2年6月30日現在）

（★：前回からの更新箇所）

【指定文化財】

現状	資料名
応急処置済	<ul style="list-style-type: none"> ・市重要歴史記念物「古筆手鑑「披香殿」解体して洗浄 ★市重要郷土資料「獅子頭（3頭）」 ★市重要郷土資料「大師河原の漁撈具（131種457点）」

【考古】

現状	資料名等
応急処置中	★順次、洗浄・乾燥（約5,000箱）

【歴史】

現状	資料名等
応急処置済	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫にあって浸水を免れた上田家文書約80件 ・浮世絵、瓦版、卷子、絵図など55点 ・「東海道五十三次図屏風」、「四季耕作図屏風」などの屏風4点
応急処置中	<ul style="list-style-type: none"> ・影向寺古材、建築部材等、小泉橋関係資料を洗浄して乾燥中（燻蒸待ち） ・電化製品など約500点など洗浄して乾燥中
冷凍保管中	<ul style="list-style-type: none"> ・古文書等コンテナボックス 約690箱 （上小田中村 原茂氏所蔵文書関連、岡上村 梶家関連、長尾村 鈴木恕家文書等） ・江戸時代の村絵図などの絵図類約30点 ・「市政だより」167件 11袋 ・「横浜貿易新報」30件

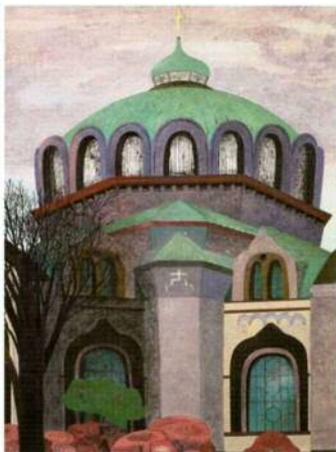
【民俗】

現状	資料名等
応急処置済	・掛軸 77点
応急処置中	★民具等のうち約20,000点を水洗、乾燥、燻蒸し、燻蒸が完了したものを本市他施設に順次移送中
冷凍保管中	・紙資料 コンテナボックス 34箱

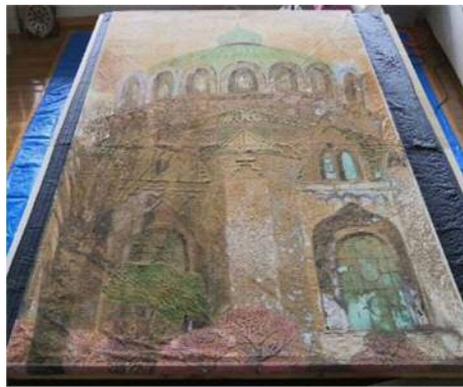
【美術文芸】

現状	資料名等
修復完了	★大矢紀「ニコライ堂」（加筆）、「昭和新山」（加筆）
修復前調査中	<ul style="list-style-type: none"> ・安田鞞彦の「草薙の剣」「小鏡子」「神農」3点 ・大矢紀「春彩」「活火風声」
応急処置済	<ul style="list-style-type: none"> ・まどみちお 1,000点 ・田中岑油彩画 10点、パステル108点 ・岡コレクション浮世絵337点 ・市内作家画稿（石渡風古他）411点 ・安田鞞彦 600点 ・岡本かの子、佐藤惣之助 書など 30点 ・濱田庄司、安田鞞彦関連資料 30点

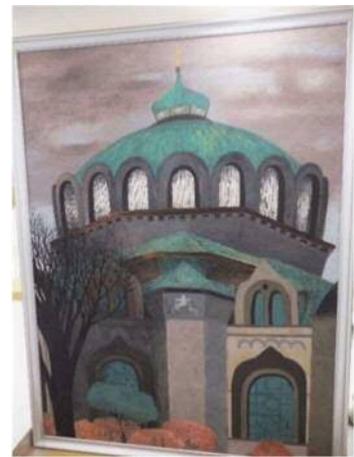
	<ul style="list-style-type: none"> ・斎藤寿一版画、スケッチ 120 点 ・田中岑「記憶」 ・江戸・明治の版画 1000 点 <p>★濱田庄司作品の陶器や沖縄の焼物など約 400 点を外部倉庫へ移送</p>
応急処置中	<ul style="list-style-type: none"> ・大矢紀 28 点や結城天童の作品の大型作品計 49 点 乾燥まで完了（燻蒸待ち） ・渡辺豊重「虚形」、江戸時代・明治時代の版画、それら関連作品や資料約 1,300 点 燻蒸待ち
冷蔵保管中	<ul style="list-style-type: none"> ・書籍類（岡本かの子他） 20 箱 ・掛軸 42 点 ・まどみちお、佐藤惣之助、岡本かの子の文学資料計約 1,200 点 ・文学雑誌、書籍約 3,300 点 ・市縁作家スケッチ 10 箱 ・小中学生の絵画作品 12 箱



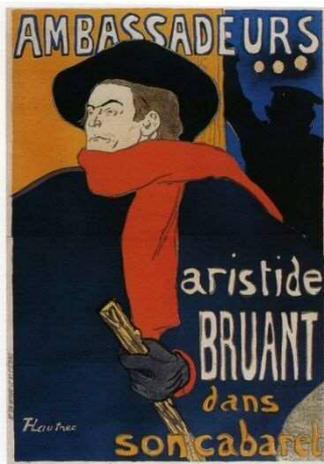
大矢紀「ニコライ堂」(被災前)



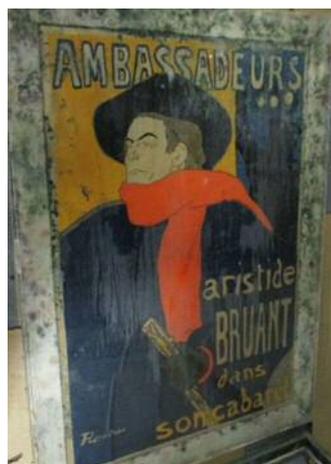
(被災後)



(修復後)



ロートレック「アンバサデュールのアリスティード・ブリュアン」(被災前)



(被災後)



(修復中：額装作業待ち)

【グラフィック】

現状	資料名等
修復中	・ロートレック「アンバサデュールのアリスティード・ブリュアン」1 点
修復前調査中	・ロートレック 18 点

	<ul style="list-style-type: none"> ・アールヌーボー、現代版画など 5 点
応急処置済	<ul style="list-style-type: none"> ・アールヌーボー 244 点 ・アールデコ 285 点 ・現代版画 403 点 ・マガジカバー 636 点 ・日本の現代作家、プロパガンダなど 334 点
冷凍保管中	<ul style="list-style-type: none"> ・ローレックなどの貴重書籍の約 650 点 (『無精』、『自由の重荷』(表紙) など) ・引出から出した約 4,500 点

【写 真】

現状	資料名等
応急処置済	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀の鶏卵紙(「遣欧使節団」フィリップ・ポトー、ウジェーヌ・アジェ、フェリーチェ・ベアト、上野彦馬等)、ダゲレオタイプ・アンブロタイプ 339 点 ・ゼラチン・シルバー・プリント(日露戦争写真アルバム、ベルント&ヒラ・ベッヒャー、ウォーカー・エヴァンズ、ルイス・ハイン等)、鶏卵紙 142 点 ・木村伊兵衛写真賞受賞作品 587 点 ・グラフ雑誌、写真関連貴重書籍 112 点 ・カメラ機材 70 点
冷凍保管中	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼラチン・シルバー・プリント、発色現像方式印画、ダイ・トランスファー・プリント等 36 箱 ・写真雑誌や貴重書籍、写真帖、関連資料等 102 箱

【漫 画】

現状	資料名等
応急処置済	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫で保管されていた漫画雑誌で浸水を免れたもの 1,500 点 ・漫画原画(岡本一平) 250 点 ・絵画 50 点 ・軸作品 50 点
応急処置中	<ul style="list-style-type: none"> ・亜鉛版 50 点を洗浄 ・箱詰めして館内保管中 800 箱
冷凍保管中	<ul style="list-style-type: none"> ・約 310 箱 ・ジャパンパンチ等 250 点(10 箱) ・当館しか所蔵されていない漫画雑誌 223 冊

【映 画】

現状	資料名等
応急処置済	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川ニュース等 211 巻をラボにて洗浄 ・フィルム、約 1,000 点を館内で洗浄して保管中 ・久保一雄のスケッチ等 2,720 点 ・映画ポスター 30 点
冷凍保管中	<ul style="list-style-type: none"> ・国内映画監督や脚本家の資料等はコンテナボックス 92 箱

【映 像】

現状	資料名等
応急処置済	・ 日本映像カルチャセンター関連作品 443 巻 ・ 日本映像カルチャセンター関連資料 1 箱
応急処置中	・ 順次、簡易洗浄
冷凍保管中	・ 実相寺昭雄関連の脚本等

【借 用】

現状	資料名等
修復中	・ 犬塚勉展 100 点

5 収蔵品のレスキュー状況



カビ払いの様子（仮設ユニットハウス）



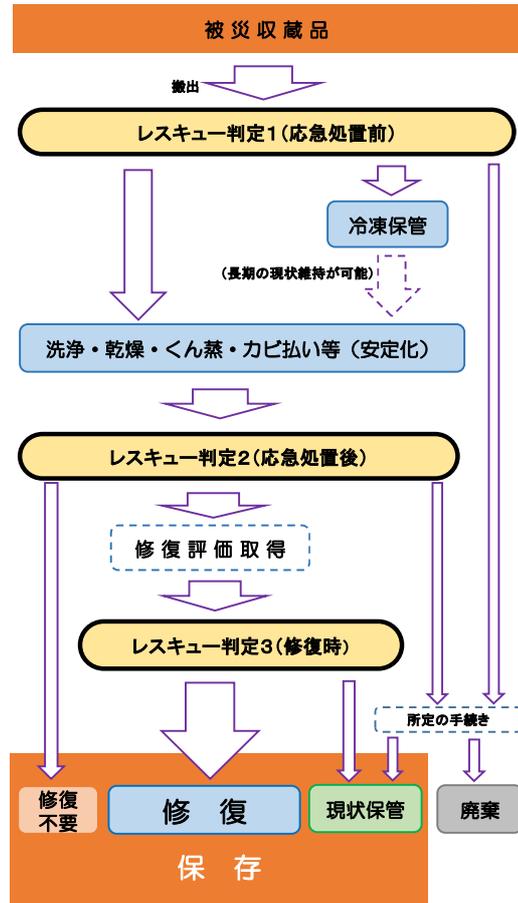
フィルムの巻き直しの様子



企画展示室2に移設した燻蒸庫

川崎市市民ミュージアム 被災収蔵品に係る修復等の判断基準について

【基本的な考え方】 専門家の意見等を踏まえながら、修復に取り組む。ただし、収蔵品の被災状況や修復評価※1等の内容に応じ、各レスキュー判定で「現状保管」※2や例外的に「廃棄」の判断を行う場合がある。



レスキュー判定1 (応急処置前)

収蔵庫から搬出した被災収蔵品は、基本的に応急処置として洗浄・乾燥・くん蒸・カビ払い等の安定化処置を行う。古文書等の紙資料については、劣化の進行を抑えるため冷凍保管を行う。

なお、以下の基準に該当する場合は、所定の手続き※3を経て「現状保管」または「廃棄」を判断する。

- 1 収蔵庫から流出、あるいは溶けて現物が確認できなかったもの
- 2 被災状況が酷く、複製・印刷物などで当館以外でも存在が確認できるもの
- 3 作品・資料で、素材が変質して崩壊し、原形にもどすことが困難なもの

所定の手続きを経て
「現状保管」
または
「廃棄」

レスキュー判定2 (応急処置後)

応急処置を行った収蔵品は、基本的に専門家等に修復評価を依頼する。

なお、以下の基準に該当する場合は、「修復不要」あるいは所定の手続きを経て「現状保管」または「廃棄」を判断する。

- 1 応急処置の段階で、修復の必要がないと判断されたもの
→ 「修復不要」
- 2 応急処置の段階で、専門家等により、修復が極めて厳しいと判断されたもの
→ 所定の手続きを経て「現状保管」または「廃棄」

レスキュー判定3 (修復時)

専門家等の修復評価を得た収蔵品は、基本的に修復する。

なお、以下の基準に該当する場合は、「修復」または「現状保管」を判断する。

- 1 専門家等の修復評価において、一定程度は修復できると判断されたもの
→ 「修復」または「現状保管」
- 2 専門家等の修復評価において、修復が極めて厳しいと判断されたもの
→ 「現状保管」

※1 「修復評価」 : 修復レベル、修復による効果、修復の期間、修復に係る費用等に関する意見等。
 ※2 「現状保管」 : 安定化された状態で保管すること。
 ※3 「所定の手続き」 : 寄託者・寄贈者等の承諾や、収蔵品データベース登録の確認など。

川崎市市民ミュージアム 浸水対策の状況について

令和元年東日本台風による浸水被害を受け、市民ミュージアムにおいては、本年4月の検証報告の内容を踏まえて以下の取組を実施する。

○施設南側からの浸水対策

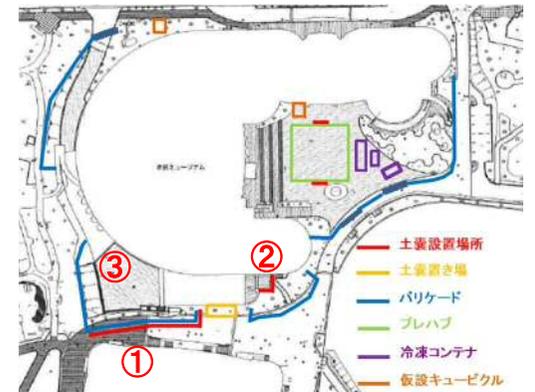
- ①補助競技場への導水策も兼ねて、市民ミュージアム・とどろきアリーナ間の通路に設置する土のう約530個を確保し、出水期（6月～11月）は常時2段分を設置し、台風など大雨が予想される場合には事前に3段目を設置する。
- ②ドライエリア上部（開口部）に設置する土のう約110個を確保し、常時設置する。
- ③雨水排水ポンプ2台（2.2m³/分）に加え、台風など大雨が予想される場合には6台（1m³/分）の雨水排水ポンプを追加する。



○風水害マニュアルの策定 指定管理者により策定 (令和2年5月27日)

風水害マニュアル（概要）

- 1 災害対応の基本方針
- 2 防災体制・活動（水害対策行動タイムライン、各時点における対応チェック事項、浸水対策、雨及び漏水対策、強風飛散対策、収蔵品の安全対策、当日の対応策）など
- 3 レスキュー作業員及び施設スタッフの安全確保



○防災対策訓練の実施（市民文化局、指定管理者）

- ①情報付与訓練（机上）： タイムライン等に基づき災害状況や被害状況を付与し、状況判断と意思決定を行う訓練を6月18日（第1回）に開催し、出水期（6～11月）には毎月第3木曜日に開催する。
- ②情報収集伝達訓練（机上）： 情報の収集方法の確認、伝達に関する確認を行う訓練を上記①と同時に実施する。
- ③収蔵品の保全訓練（机上）： 仮設ユニットハウス、館内1階、2階等の収蔵品について、安全な場所への移設計画の立案、移設シミュレーション等を7月7日に実施した。
- ④浸水防止訓練（実地）： 土のうの設置訓練を次のとおり実施した。
- ・ 4月2日（ドライエリア上部に設置）
 - ・ 4月16日（市民ミュージアム・とどろきアリーナ間の通路に設置）
 - ・ 6月16日（土のう積み研修：とどろきアリーナと同時開催）
- ※他にも、等々力緑地全体の訓練として、上下水道局、中原区役所、建設緑政局、市民文化局の合同で6月30日に等々力緑地図上訓練を実施した。

川崎市とどろきアリーナ 浸水対策の状況について

令和元年東日本台風による浸水被害を受け、とどろきアリーナにおいては本年4月の検証報告を踏まえ、以下の取組を実施する。

○施設の浸水対策

施設1階への浸水対策として設置する簡易式止水板（コンパネ41枚、土のう145個、ブルーシート）及び地下機械室等への浸水対策として吸水マット50個、地下にある機械を上階の漏水から守るために覆うブルーシートを3月までに準備済



浸水に備え、ドア入口やエレベーター前等へ簡易式止水板を設置する

○防災対策会議の実施（指定管理者、中原区役所、市民文化局）

水害対策訓練の検討や風水害対応マニュアルの見直し、連絡体制の確認等を目的に会議を開催。6月29日に第1回を開催し、今後も適時開催予定。

第1回会議概要

- ・連絡体制、役割の確認
- ・マニュアルの見直し（水防資器材の保管場所見直し等）
- ・水害対策訓練の実施計画の検討
- ・等々力排水区の浸水対策（情報共有）

風水害対応マニュアル（概要）

- ・水害対策行動タイムライン
- ・各時点における対策チェック事項
- ・具体的な浸水対策の作業手順
- ・連絡体制
- ・水防資器材保管場所
- ・平常時における危機管理(風水害)の取組

○風水害に係る訓練などの対策

「**水害対策訓練**」＝情報伝達、タイムラインに基づく対応の確認、土のう積み訓練、関係局区主催の水防訓練への参加などを6月から順次実施

- ・6月16日 土のう積み訓練
(市民ミュージアムと同時開催。中原区道路公園センターの指導)
 - ・7月16日 水防資器材の設置訓練、タイムラインに基づく対応の確認
- ※そのほか、6月30日に等々力緑地図上訓練を実施。

また、今後開催予定の等々力緑地全体の現地訓練において、水防資器材の設置等の訓練を予定



6/16 土のう積み訓練の様子

「**水害対策研修**」＝専門的知見を持った講師による研修、指定管理者が全国で管理する施設で行った災害対応事例の共有などを順次実施

「**会議等における情報共有**」＝等々力緑地内施設等の関係機関の定例会議を活用した、水防に係る情報共有などを6月から実施

●等々力緑地全体の短期的な浸水対策のうち、とどろきアリーナに関わるもの

とどろきアリーナへの浸水防止、運動広場への導水策として、止水板（ボックスウォール）131枚の準備



等々力緑地の短期的な浸水対策について

令和元年東日本台風による浸水被害を受け、等々力緑地においては本年4月の調査報告を踏まえ、関係局区が連携し、以下の取組を実施する。

- 関係局区による庁内連絡会の設置
 - ・等々力緑地の浸水対策の検討や訓練の企画、実施などを目的に会議を開催
 - ・市民文化局、建設緑政局、中原区役所、上下水道局の関係課で構成
 - ・これまで2回の会議を開催し、今後も適宜、開催予定

○短期的な浸水対策

	対策	方法	役割分担
対策①	ミュージアムへの浸水防除	土のう設置	市民文化局
対策②	補助競技場への導水	L型擁壁の一部を開口	中原区役所
対策③	釣り池への導水	下水から水路へ接続	中原区役所
対策④	アリーナへの浸水防除 運動広場への導水	止水板の設置 (ボックスウォール)	市民文化局 中原区役所
対策⑤	釣り池の水位低下	排水ポンプ車で排水	上下水道局

- 関係局区が連携した訓練の実施
 - ・6月30日「等々力緑地図上訓練」
=令和元年東日本台風と同様の事象を想定した情報伝達訓練
 - ・8月上旬「浸水対策実地訓練」
=緑地内の施設の浸水対策および導水対策の実地訓練

【等々力緑地の短期的な浸水対策図】

